

# ことばは

# 楽しい ⑨

世界にはいろいろなことばがあり  
それを使って生活している人たちがいます。  
数多くの魅力あふれることばを育んだ  
風土や文化を紹介しながら  
ことばを学ぶ楽しさを伝えていきます。

教育関係者の方々へ：  
高校生をはじめ若い人たちに  
広くこのシリーズを  
読んでもらいたいと思います。  
ぜひ教室等に掲示してください。

## スワヒリ語

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 中村香子

### Habari? Nzuri! (「ハバリ?」「ンズリ!」)

「どう?」「元気です!」

(上) ナイロビの街を歩く女性。おしゃれな人が多い。  
(下) 街角でおしゃべり。あいさつだけですませることは滅多にない。



アフリカのケニアというと、広大なサバンナにシマウマが駆け回り、象がたたずみ、地平線の彼方にはキリンの群れが砂煙をあげて走っている……そんな光景が想像されます。ケニアはまさにその通りの野生の王国です。でも、首都の

ナイロビは高層ビルが建ち並び活気あふれる大都会。びしっとスーツできめているビジネスマンや、鮮やかな色の服をおしゃれに着こなす女性たちが行き交っています。

「ハバリ?」というのが軽いあいさつ。「こんにちは!」という意味で使われますが、「ハバリ」は「ニュース」という意味です。道で知人に会うと必ず握手をして、お互いの最近のニュースを話します。ケニアに住みはじめて間もない頃、握手する習慣がまだ身に着かずにいた私は「手のあいさつはないの?!」とよく怒られたものです。

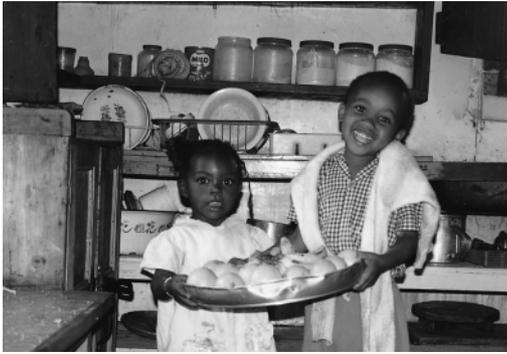
「ハバリ(どう)?」と聞かれたら、「ンズリ(元気です)」と答えます。「ハバリ・ヤ・カジ(仕事はどう)?」「ポレポレ(ぼちぼちなね)！」と続きます。ポレポレとはゆっくりゆっくり、という意味ですが、決して悪い意味ではありません。むしろとてもいい意味です。ゆっくりしている人は「ムボレ」といわれますが、これは礼儀正しい人、優しい

人のことです。逆に、忙しそうなお人、急いでいる人は礼儀を忘れる人です。挨拶もそこそこに忙しそうに立ち去るなど、もってのほか。ケニアではちょっと「のろま」ぐらいのほうがいい友達ができるかもしれせん。

月曜日の午前中、今日も銀行は長蛇の列です。窓口のルーシーはいつも最新のヘアスタイルできめたキャリア・ウーマン。厳重な警備のガラス張りの向こうで今日も軽快な手さばきでお札を数えています。お客さんたちはみな、「ハバリ、ルーシー?」と言ってカウンターとガラスのわずか2センチの隙間に指先を滑り込ませています。「ンズリ!」とルーシーは隙間からのぞいた指に手を伸ばします。ガラス張りの窓口のあちらとこちらの苦肉の策の握手です。この人たちにとって「ハバリ」は握手なしには完成しないようです。こんなふうに一人ひとり丁寧な挨拶をかわしているから行列はなかなか短くなりません。

さて、ようやく私の番です。「ハバリ・ヤ・クポテア?」とルーシー。クポテアは「隠れている・いなくなる」という意味です。「隠れている間どうでしたか?」というのが直訳で、久しぶりに顔を合わす相手との挨拶ですが、「どうしてこんなに長く隠れていたの?私に挨拶にもこないで」という気持ちを込めて使います。「銀行に用がなかったから」なんて理由はまったく通用しません。お互いの様子を知るために挨拶に訪れること、それは彼らにとっても大切な用事であり、忘れてはならない礼儀、人と人のつながりの基本なのです。「しまったー!」という気持ちの私に、別れ際ルーシーは「ウシポテエ・サー(あんまり長く隠れちゃダメよ)！」と笑顔でたしなめてくれます。

△ 中村香子(なかむら・きょうこ)  
1965年生まれ。津田塾大学学芸学部卒業。  
日本アイビーエム勤務を経て、94年より3年間、ケニアでNGOの活動に従事する。



ナイロビ郊外に住む  
子どもたち。

## 耳にやさしいスワヒリ語

スワヒリ語は東アフリカの国々、おもにケニアとタンザニアで民族を結ぶ共通語として使われていることです。特にタンザニアでは広くスワヒリ語が使われていて、ゆっくと流れるような美しいテンポのスワヒリ語を耳にすることができます。

文字はなく、アルファベットで表記します。「ジャンボ（こんにちほ）」「ボレボレ（ゆっくゆっく）」「サワサワ（だいじょうぶ）」「サファ（旅）」など、聞き憶えのあることばもあるのでないでしょうか。「ボレボレ、サワサワ、サワサワ」口にするだけでゆったりと大きな気持ちになります。

発音はカタカナふうでとてもなじみやすく、現地の人びとも「どうして日本人はまるでアフリカ人みたいにスワヒリ語を発音できるの？」と驚きます。日本語と発想が似ていることばもあります。例えば「マチョ」は「目」という意味ですが、目玉焼きも「マチョ」、網の目の「目」も「マチョ」です。また「ハイヤ!」は了解、「アラ!」は驚きの表現に使います。

ケニアは50もの民族が集まってひとつの国をつくり、スワヒリ語は民族同士の結びつける共通語としてとても重要。これは、サンプルと呼ばれる民族の女性。牧畜民のなかには、このように強く伝統を守って生きている人たちがいる。ピースが華やか。



## スワヒリ語の世界に触れてみよう

ケニアでは、トモロコシの粉を熱湯でといてこねた「ウガリ」を主食としてよく食べます。あつあつの粘土のかたまりのようなウガリを一握りちぎって、右の手のひらできゅっきゅ、とかたまりをつくり、親指で真ん中にくぼみをつけます。そのくぼみに野菜や肉の煮込みをすくい取って食べます。

日本にもいくつかアフリカ料理が食べられるお店があります。中には、アフリカ音楽の生演奏を聞きながら食事ができるところもあります。音楽はアフリカの大きな魅力のひとつです。太鼓のリズムに合わせて歌い踊るバンドの人たちの笑顔。食事中でも、ついついつられて踊りたくなります。ウガリを片手に踊りだしても「サワサワ!」堅苦しくないのが最高です。

チャパティを  
焼いているところ。  
ウガリに比べ  
手間のかかる  
チャパティは、  
お客さんが  
来たときに  
作ることが多い。



### 著者のおすすめ本

- 『**エクスプレス スワヒリ語**』アブディ・ファラジ・レハニ、白水社  
エクスプレスという名のとおり、解説も簡単で分かりやすく、スピーディに学習できる。
- 『**スワヒリ語常用6000語**』守野庸雄・中島久、大学書林  
ここに出ている6000語をマスターすればもう安心。
- 『**Simplified Swahili**』Peter M Wilson, Longman  
スワヒリ語の文法について、系統だてて丁寧に説明してある。
- 『**スワヒリの世界にて**』和崎洋一、NHKブックス  
数々の魅力的なスワヒリ語がちりばめられている。ことば一つひとつが持つスワヒリの世界の深さと温かさを広大なサバンナに生きる人びとの生活を通じて実感できる。
- 『**おしゃべりなタンザニア**』木村映子、東京新聞出版局  
タンザニアの首都、ダル・エス・サラームに住む著者の生き生きとしたレポート。都会の、同時代を生きる人びとの暮らしを通じてスワヒリ・スピリットを鮮やかに描き出している。

### スワヒリ語関連の講座および資料の閲覧について

- アジア・アフリカ語学院**（語学講座）  
所在地：東京都三鷹市新川5-14-16  
電話：0422-48-5515
- アジア図書館**（語学講座、資料閲覧）  
所在地：大阪市淀川区東中島5-18-20  
電話：06-6321-1839
- アフリカ協会**（資料閲覧）  
所在地：東京都港区虎ノ門1-11-2  
電話：03-3501-1878  
ホームページ：<http://home.att.ne.jp/green/asj/>
- キ・アフリカ**（語学講座、関連イベント）  
所在地：東京都町田市成瀬台1-4-14  
電話：042-728-7731  
ホームページ：<http://www.ne.jp/asahi/jv/cos/kiafrika>